

2. 現在までの研究状況 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の変更・追加は不可(以下同様))

- ① これまでの研究の背景、問題点、解決策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。
- ② 申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について、問題点を含め①で記載したことと関連づけて説明してください。
 なお、これまでの研究結果を論文あるいは学会等で発表している場合には、申請者が担当した部分を明らかにして、それらの内容を記述してください。

■ 研究の背景

社会の中で他者と協調して暮らすためには、その社会を構成している人々の間で規範(道徳)が共有されている必要がある。これまで心理学においても道徳判断・行動がどのようにして生じるのかについて数多くの研究がなされてきた。以前は、道徳判断・行動は意識的な熟慮に基づいて決定されると考えられてきたが、近年は無意識的な情動反応が重要な役割を担っていることがわかってきた(e.g. Haidt, 2001)。例えば、Wang et al. (2015) は実験参加者(全員男性)が虚偽の報告をすることでより多くの報酬が得られる状況下で課題を行わせ、不正行動の頻度を測定した。その結果、課題中に課題とは非関連な魅力的な女性の写真を呈示すると、不正行動の生起頻度が下がることがわかった。この結果は、魅力的な女性を知覚したことによってポジティブ感情が生起し、道徳的な判断に影響したことが原因であると解釈された。

■ 問題点・解決策

先行研究(Wang et al., 2015)の問題点は2つ挙げられる。まず、実験参加者の感情状態が測定されておらず、本当に感情状態が媒介した効果なのかは明らかではない。人の道徳的判断や行動は他者の存在に影響される(e.g. Grimalda et al., 2016)こと、そして人は魅力的な他者(特に異性)に対して道徳的な行動をする傾向が強いこと(e.g. Bhogal et al., 2016)から、魅力的な他者が呈示されていたこと自体が道徳行動を増加させた要因であった可能性がある。また、Wang et al. (2015)では潜在的な道徳行動が測定されているが、顕在的な行動は社会的望ましさの影響を受け易く、意図的に変えることが可能である。Wang et al. (2015)は潜在的な道徳態度の測定は行なっておらず、実験参加者の潜在的な道徳態度が変化していたかどうかは未解明である。

これらの問題点に対して、申請者は人物の画像を呈示する前後で、感情状態と、実験参加者が意図的に変容させることができない潜在的な道徳態度を測定することで解決した。

■ 研究目的

魅力的な他者を知覚することによって潜在的な道徳態度が変化するかどうか、その変化を感情状態は媒介しているかについて明らかにする。

■ 人物の魅力度は感情状態を媒介せずに潜在的な道徳態度に影響する〈研究業績 1, 3, 9〉

【方法】実験は3つのセッションで構成された。

- ① 事前テストセッション：実験参加者の自己概念と道徳的属性の連合の強さ、そして感情状態をそれぞれ IAT (図 1) と日本語版 PANAS を用いて測定した。
- ② 画像暴露セッション：参加者は連続的に呈示される 100 枚の画像を見て、同一画像が繰り返し呈示された際にスペースキーを押した。参加者を 3 群に割り当て、魅力的な女性・中程度に魅力的な女性・家(対照条件)のいずれかを呈示した。
- ③ 事後テストセッション：事前テストセッションと同様に IAT と PANAS による測定を行い、事前セッションとの比較により、連続呈示による画像暴露の影響を検討した。

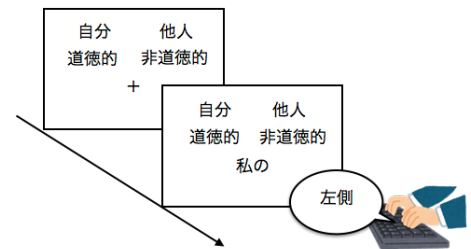


図 1. IAT の手続き。この例では、参加者は呈示された語句が「自分」「道徳的」のいずれかであれば左、「他人」「非道徳的」のいずれかであれば右のキーを押す。

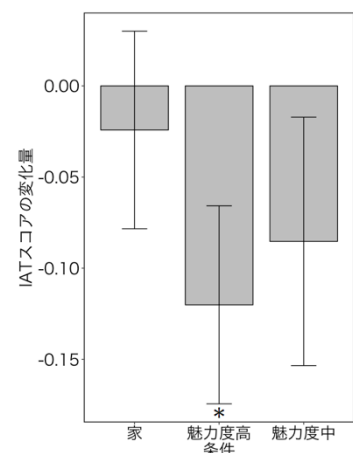


図 2. IAT スコアの変化量。魅力的な女性を知覚した後で IAT スコアは減少した。* $p < .05$

(現在までの研究状況の続き)

【結果】前頁図2に示されるように、魅力度の高い女性が暴露された後でIATスコアが有意に低下した。これは魅力度の高い女性を知覚することによって、実験参加者の自己概念と道徳的属性の連合が弱まったことを表しており、魅力的な人物を知覚することが潜在的な道徳態度を変容させることが明らかとなった。また、魅力度の高い女性が暴露された後でネガティブ感情状態が有意に低下した($p = .01$)。しかし、ネガティブ感情状態の変化はIATスコアの変化を媒介しておらず(図3)、潜在的な道徳態度の変化と感情状態の変化は独立していることが示唆された。

■ 特色と独創的な点

【特色】感情状態の変化は潜在的な道徳態度の変化を媒介していないことが明らかとなった。先行研究では、感情状態の変化が道徳判断や行動の発現要因になっていると考えられていた。しかし、申請者が実施した研究によって感情状態は関与していない可能性を示すことができた。

【独創的な点】知覚的経験によって潜在的な道徳態度が変化する可能性を初めて示唆することができた。潜在的な道徳態度の変化について検討した研究は存在する(e.g. Lai et al., 2014)が、シナリオを読ませるなど高次の認知処理を要する手続きによって潜在的な道徳態度を変容させている。高次の認知処理を必要としない知覚的経験のみで潜在的な道徳態度が変化したことを示したのは申請者が初めてである。

※ 上記の研究は計画の立案、データの収集と分析、研究発表の全てにおいて申請者が中心となって進められた。

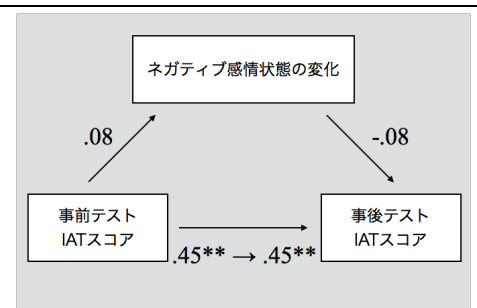


図3. 媒介分析の結果。表示している係数は標準化係数。IATスコアの低下に感情状態の変化は媒介していなかった。

** $p < .01$

3. これからの研究計画

(1) 研究の背景

2. で述べた研究状況を踏まえ、これからの研究計画の背景、問題点、解決すべき点、着想に至った経緯等について参考文献を挙げて記入してください。

■ 研究の背景

顕在的な道徳行動や潜在的な道徳態度は変化することが明らかになっている。例えば、Rudman, et al. (2001) は異文化を理解する教育プログラムによって異文化に対する偏見が取り除かれ、顕在的な行動も潜在的態度も道徳的な方向へ変化するとしている。一方、Lai et al. (2014) は、シナリオを読ませることによって潜在的な態度は道徳的な方向へ変化したが、顕在的な道徳行動は変化しなかったことを報告している。Perugini & Leone (2009) は潜在的な道徳態度は顕在的な道徳行動を予測すると示しているが、Rudman, et al. (2001) と Lai et al. (2014) では顕在的な道徳行動と潜在的な道徳態度の関係性が一致していない。

■ 問題点・解決すべき点

これまで、他者の存在は道徳的な行動の発現要因であると考えられてきた。しかし、申請者の研究では、他者が呈示された後で潜在的な道徳態度が弱まる結果となった。上述の先行研究間の矛盾や申請者の研究結果と先行研究での結果の相違がどのような場合に生じ、どのような場合では生じないのか、その境界線は明らかになっていない。以上の問題点を解決するためには、どのような状況で顕在的な道徳行動の変化と潜在的な道徳態度の変化の方向は一致するのか、潜在的な道徳態度の変化は顕在的な道徳行動の変化を予測するのかについて、より詳細に示す必要がある。

■ 着想に至った経緯

従来の研究では、臨床的な介入(Huijding & Jong, 2009)やシナリオを読ませる(Lai et al., 2014)など、高次の認知処理を要する経験による顕在的な行動や潜在的な態度の変容について考えられてきた。しかし、道徳に関しては、道徳判断が直観的な認知過程に基づいていることが報告されている(Haidt, 2001)ことから、より低次の知覚的経験が顕在的な道徳行動や潜在的な道徳態度の変化に及ぼす影響について解明すべきであると考えた。

(2) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。)

- ① 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入してください。
- ③ 所属研究室の研究との関連において、申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ④ 研究計画の期間中に異なった研究機関 (外国の研究機関等を含む。) において研究に従事することを予定している場合はその旨を記載してください。

■ 研究目的

今回提案する研究計画は、顕在的な道德行動と潜在的な道德態度の変化の方向はどのような時に一致するのか、また、潜在的な道德態度の変化は顕在的な道德行動を予測するのかを明らかにすることを目的とする。

以上の目的を達成するために研究 A、研究 B、研究 C を実施する。

■ 研究 A：いつ人物を知覚すると判断や行動が道德的になるのか

【目的】先行研究 (e.g. Wang et al., 2015) では、顕在的な道德判断・行動を測定する際、同時に人物が呈示されていた。しかし、申請者が行った実験では潜在的な道德態度を測定する際に人物は呈示されていなかった。研究 A では、顕在的な道德判断・行動、潜在的な道德態度を測定しているときに人物を知覚することが重要なのかを確かめる。

【方法】〈道德課題 (下記 1、2) 中画面に常時人物画像が呈示されている条件〉と、〈画像暴露セッションの後で道德課題を実施する条件〉を設ける。どちらの条件でより道德的な顕在的行動・潜在的態度が現れるかを比較する。

1. 顕在的な道德行動の測定

サイコロ課題 (図 4) を実施する。ターゲットナンバーと、ターゲットナンバーが出た場合に参加者の報酬がいくら減るかが呈示される。ターゲットナンバーの数が大きいくほど、報酬の減少額は大きい。実験参加者はサイコロを振り、出た目がターゲットナンバーと同じであったかどうかを報告する。

2. 潜在的な道德態度の測定

プライミング課題 (図 5) を実施する。実験参加者はプライム刺激の後に出てくるターゲット刺激が道德違反に関するものか、道德とは関係ないものかを判断する。

■ 研究 B：どのように人物を知覚すると判断や行動が道德的になるのか

【目的】内集団成員への関下単純接触が、内集団成員に対する潜在的な態度を変化させることが報告されている (川上・吉田, 2010)。研究 B では、人物を無意識的に知覚することが顕在的な道德行動・潜在的な道德態度に及ぼす影響について明らかにする。

【方法】人物画像の関上呈示と関下呈示を行う。人物画像を呈示する前後で顕在的な道德行動と潜在的な道德判断の測定をサイコロ課題、プライミング課題を用いて実施する。

■ 研究 C：感情状態は本当に顕在的な道德行動・潜在的な道德態度を媒介しないのか

【目的】顕在的な道德行動や潜在的な道德判断に感情状態の強さは関係しているかを調べ、申請者が得た結果の頑健性を確認する。

【方法】〈感情価強条件〉、〈感情価中条件〉、〈感情価低条件〉を設ける。各条件画像を観察する前後で、顕在的な道德行動・潜在的な道德態度をサイコロ課題、プライミング課題を用いて測定する。

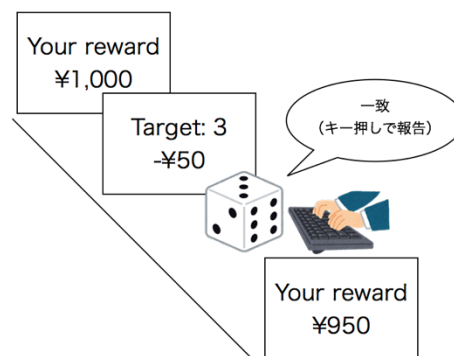


図 4. 顕在的な道德行動を測定するために実施するサイコロ課題。ターゲットナンバーと同じ目が出たと報告すると報酬が減る。

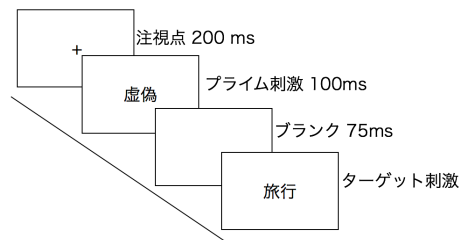


図 5. 潜在的な道德認知の測定に用いる課題。参加者はターゲット刺激が道德違反に関する単語か中性的な意味の単語かを判断する。

(3) 研究の特色・独創的な点

次の項目について記載してください。

- ① これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
- ② 国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
- ③ 本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

■ 本研究の特色、着眼点、独創的な点

先行研究 (e.g. Grimalda et al., 2016; Lai et al., 2014) では、高次な認知過程を経て顕在的な道徳行動や潜在的な道徳態度が変容したことが示されているが、申請者の研究計画では低次な知覚・認知過程が顕在的な道徳行動や潜在的な道徳判断に影響することを明らかにする。また、これまでの先行研究では取り入れられてなかった人物を無意識的に知覚することの効果を解明する。

■ 研究の位置づけ、意義

【理論的進展】低次な認知処理によって顕在的・潜在的な道徳判断や行動が変容することを示すことで、近年示唆されている道徳行動・認知における低次な認知処理の重要性を支持することができる。また、潜在的な道徳態度から顕在的な道徳行動を予測するモデルを提案することができる。

【隣接領域への示唆】本研究で得られる道徳に関する知覚・認知的知見は心理学だけでなく、行動経済学や哲学領域に対しても意味がある。これまで考えられてきたような理性に基づいた道徳理論から、人間の認知特性に基づいた道徳理論に発展することができる。

■ 研究のインパクト及び将来の見通し

本研究で得られる知見は道徳行動・判断をするときのトリガーが知覚的なものである可能性を示唆することができる。本研究を通して得られた知見を用いて、教育現場におけるいじめのような道徳に関する問題が何故なくなるのかについて検討したい。

(4) 年次計画

申請時点から採用までの準備状況を踏まえ、DC1 申請者は 1～3 年目、DC2 申請者は 1～2 年目について、年次毎に記載してください。元の枠に収まっていれば、年次毎の配分は変更して構いません。

(申請時点から採用までの準備)

実験 2：画像が暴露されると道徳行動の発現頻度は変化するのか (現在実施中)

これまでの研究で得られた傾向が顕在的な道徳行動においても見られるのかを確かめるため、サイコロ課題を用いた行動実験を実施する。

- 3 月に『2018 Society for Personality and Social Psychology (SPSP) Annual Convention』と『「注意と認知」研究会第 16 回合宿研究会』、採用 1 年目の 6 月頃に『日本認知心理学会第 16 回大会』で発表をする。ここまでで得られた成果を国際誌に投稿する。

(1 年目)

研究 A：いつ人物を知覚すると判断や行動が道徳的になるのか

関西学院大学の学生を対象とした実験室実験を行う。先行研究やこれまで申請者が実施した研究を参考に刺激や条件を決定し、予備実験での検討を経てから本実験を始める。また、後半からは研究 B の準備を進める。

- 11 月頃に『Psychonomic Society 59th Annual Meeting』、3 月頃に『「注意と認知」研究会 (A&C) 第 17 回合宿研究会』で報告をする。論文として報告できるデータが揃い次第論文を執筆し、国際誌に投稿する。

(2 年目)

研究 B：どのように人物を知覚すると判断や行動が道徳的になるのか

関西学院大学の学生を対象とした実験室実験を行う。人物画像、顕在的な道徳行動と潜在的な道徳判断の測定方法は前年度に実施する実験と同じものを使用する。人物画像が持つ魅力などの特性が影響していると考えられる場合、どのような特性が重要なのか、またその特性の知覚における個人差についても検討する。予備実験での検討を経た後、本実験を始める。また、後半からは研究 C の準備を進める。

- 6 月頃に『日本認知心理学会第 17 回大会』、10 月頃に『日本社会心理学会第 60 大会』、3 月頃に『「注意と認知」研究会第 18 回合宿研究会』で報告をする。論文として報告できるデータが揃い次第論文を執筆し、国際誌に投稿する。

(年次計画の続き)

(3年目) (DC2申請者は記入しないでください。)

研究C：感情状態は本当に顕在的な道徳行動・潜在的な道徳態度を媒介しないのか

関西学院大学の学生を対象とした実験室実験を行う。刺激や条件の検討を予備実験で行ったあと、本実験を始める

- 7月に開催される『International Congress of Psychology (ICP) 2020』、3月頃に『「注意と認知」研究会第19回合宿研究会』で研究の報告をする。



(5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を含むアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続きの状況も具体的に記述してください。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

申請者の研究計画では、人を対象として反応時間や正答率などの行動指標を用いた心理学実験を行う。実験を実施する際は事前に「関西学院大学 人を対象とした臨床・調査・実験研究倫理委員会」の承認を受ける。実験参加者への配慮と個人情報の管理について以下に示す。

【実験参加者への配慮】

- 予め実験の目的、手順、所要時間について説明をする。
- 実験中に適宜休憩をすることにより疲労に十分配慮し、実験参加者の状態に問題がある場合には直ちに実験を中断する。
- 実験についての疑問に対して回答する。
- 実験への参加は自由意志に基づくものであるため、実験参加者が実験の中止を申し出た場合には理由の如何に関わらず直ちに実験を中止する。それによって実験参加者が不利益を被ることはない。

【個人情報の管理】

- 記録された実験データは個人が特定できないような形で統計的に処理する。
- 実験データは研究活動（学会発表・論文など）以外で使用されない。
- 実験内で得られた個人情報は厳重に保管する。

以上の内容について実験開始前に実験参加者に対して説明をする。同意が得られた場合、実験参加者は実験参加協力同意書に署名する。

4. 研究業績（下記の項目について申請者が中心的な役割を果たしたもののみに項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。業績が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他〇報」等と記載してください。査読中・投稿中のものは除く）

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載してください。査読のある場合、印刷済及び採録決定済のものに限ります。）

著者（申請者を含む全員の氏名（最大 20 名程度）を、論文と同一の順番で記載してください。）、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁～最終頁、発行年をこの順で記入してください。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。）

著者（申請者を含む全員の氏名（最大 20 名程度）を、論文等と同一の順番で記載してください。）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に〇印を付してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。）

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

(3)と同様に記載してください。

(5) 特許等（申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。）

(6) その他（受賞歴等）

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書

なし

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

なし

(3) 国際会議における発表

【査読あり・口頭発表】

1. ○Nishimura, Y. & Ogawa, H. Exposure to attractive faces modulates implicit moral attitude. The 2017 Annual Conference of the Korean Society for Cognitive and Biological Psychology, Pusan National University, Korea, January, 2017.

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

【査読なし・口頭発表】

2. ○西村友佳・中谷勝哉. デルブーフ錯視はなぜ生じるのか. 日本心理学会「注意と認知」研究会, 第 14 回宿研究会, ホテルサンルートプラザ名古屋, 2016 年 3 月.
3. ○西村友佳・小川洋和. 潜在的態度の変化に対する魅力的な顔の効果. 日本心理学会「注意と認知」研究会, 第 15 回宿研究会, ホテルサンルートプラザ名古屋, 2017 年 3 月.

(5) 特許等

なし

(6) その他

【給付型奨学金】

4. 近畿大学総合社会学部 特待生として奨学金（授業料半額免除）を授与, 2013 年度.
5. 近畿大学総合社会学部 特待生として奨学金（授業料半額免除）を授与, 2014 年度.
- ※ 上記 6. 7. は前年度の科目平均点が 85 点以上である成績優秀者が対象の学部独自特待生制度によるものである。心理系専攻約 140 名の学生の中から選ばれる人数は 2 名である。
6. 近畿大学 奨学金（年額 30 万円）を授与, 2015 年度.
- ※ 上記 8. は人物・学業ともに特に優れ、かつ健康であって学業成績優秀でありながら経済的に学資の援助を受けることが必要であると認められる学生が対象の近畿大学独自奨学金である。
7. 関西学院大学 ベーツ第 1 種支給奨学金（34 万円）を授与, 2016 年度.
- ※ 上記 9. は学業成績が特に優秀で学問研究に熱意を有する学生が対象の関西学院独自奨学金である。

【受賞歴】

8. 近畿大学 学部長賞を受賞, 2016 年 3 月.
- ※ 上記 10. は在学中の学業成績が優秀であり、他の学生の模範となる学生に対し贈られる賞である。

【発表助成】

9. 日本認知心理学会「韓国認知生物心理学会への発表支援」. 日本認知心理学会, 2016 年.
- ※ 上記 11. は上記 3. に対する発表支援である。

申請者登録名 西村 友佳

5. 自己評価

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、申請者本人による自己評価を次の項目毎に記入してください。

① 研究職を志望する動機、目指す研究者像、自己の長所等

② 自己評価する上で、特に重要と思われる事項（特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など）

■ 研究職を志望する動機

大学に入学してから基礎心理学の存在を知った。初めて幾何学的錯視について学んだとき、ミュラー・リヤー錯視やデルブーフ錯視などについての知見が実生活の中でどのように生かされるのかが想像できなかった。しかし、私が日頃施している化粧が幾何学的錯視によって説明することができるを知り、非常に心が弾んだ。それは私の中で基礎から応用、そして実践への繋がりが見えた瞬間であった。私はこのときから基礎研究に励むようになり、将来は自分で得た基礎的な知見を実生活の中で応用させたいと考えるようになった。この夢を叶えるために、私は研究職を志望する。

■ 目指す研究者像

科学者-実践家モデルを体現する研究者 科学者-実践家モデルは基礎心理学と応用心理学の連携を図り、教育、研究、および実践の一体化を目指したモデルである（松見, 2016）。私は基礎心理学の研究者である自覚を持ちながら、このモデルを体現していきたいと考えている。人の心のはたらきに対する問題意識を先行研究からだけでなく社会の中からも見出し、基礎心理学のアプローチに則って解明したい。そして、得られた知見を社会に還元したい。将来は教育に携わることで、基礎心理学者としての科学者-実践家モデルの体現を成し遂げたい。

■ 自己の長所等

① 努力を継続させることができる。

② 専門的な知識を一般の人にわかりやすく伝えることができる。

私はこの長所を生かし、上述の「目指す研究者像」を実現する。

■ 自己評価する上で、特に重要と思われる事項（「自己の長所等」の根拠となる事項）

【特に優れた学業成績】

1. 近畿大学総合社会学部では4年間で68科目を履修し、全ての科目で80点以上（優）の評価を得た。この評価によって2年、3年、4年時は授業料の免除を受け、卒業時に学部長賞を受賞した（研究業績6-8,10）。
2. 関西学院大学文学研究科では1年次に17科目を履修し、16科目で80点以上（優）の評価を得た。さらに、ベーズ第1種支給奨学金によって1年次の授業料免除を受けた（研究業績9）。

【特色ある学外活動など】

3. 公益財団法人日本習字教育財団に属する書道教室に13年間通い、財団の中で最高位の書道師範免許を取得した（平成25年8月 公益財団法人日本習字教育財団 漢字部門教授）。
4. 学部3年生の頃から毎年日本心理学会、関西若手実験心理学研究会（京阪神の若手研究者による研究会）、日本心理学会「注意と認知」研究会に参加している。その他、学内外で開催される研究会やセミナーに分野を問わず積極的に参加している。
5. 近畿大学在籍時も関西学院大学入学後も大学のオープンキャンパスにスタッフとして携わり、高校生や保護者に対して幾何学的錯視や実験室についてなど、基礎心理学分野の説明を行なっている。

以上の事項1、2、3はいずれも常日頃からコツコツと努力を重ねていなければ得られなかったものであり、私の長所である「努力を継続させることができる」を表している。研究を進めることは日々の情報収集と試行錯誤の積み重ねであると考えており、私の長所はそれを可能にすると自負している。さらに、学内外の研究会等に進んで参加し、様々な分野の研究者と交流を深めていること（事項4）とオープンキャンパススタッフとしての活動（事項5）は私が目指す科学者-実践家モデルの体現に繋がっていくはずである。